

市立病院のがん医療への取組について

健康福祉・病院経営委員会
平成 27 年 2 月 12 日
病院 経 営 局

はじめに

がん対策基本法に基づき平成 24 年 6 月に策定された「がん対策推進基本計画」では、①放射線療法、化学療法、手術療法のさらなる充実と、これらを専門的に行う医療従事者の育成、②がんと診断された時からの緩和ケアの推進、③がん登録の推進、④働く世代や小児へのがん対策の充実が、重点取組課題として示されています。本市においても、総合的ながん対策を推進することを目的として、全市会議員の提案により、昨年 10 月に「横浜市がん撲滅対策推進条例」が施行されました。市民病院、みなと赤十字病院では、基本法及び条例の趣旨を踏まえ、がん医療を積極的に推進します。

取組 1

地域がん診療連携拠点病院

地域がん診療連携拠点病院とは、専門的ながん医療の提供等や、がん診療の連携協力体制の整備を図るほか、がん患者に対する相談支援及び情報提供を行う病院として国が指定する病院です。

【市内病院の指定状況】

- 都道府県がん診療連携拠点病院(1) 神奈川県立がんセンター
地域がん診療連携拠点病院(7) 市民病院、みなと赤十字病院、横浜市大附属病院、横浜市大市民総合医療センター、横浜労災病院、北部病院、東部病院
神奈川県がん診療連携指定病院(4)※ 南部病院、横浜医療センター、南共済病院、けいゆう病院

※ 厚生労働省の定める地域がん診療連携拠点病院と同等の機能を有するものとして、神奈川県知事が独自に指定する病院

市民病院

【指定時期】 平成 18 年 8 月

【主な診療実績】(平成 26 年度第 5 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会資料より抜粋)

- 市民病院における 5 大がんの診療実績(市内がん拠点病院(県指定病院を除く。)の患者数合計に占める割合)では肺がん、大腸がんの割合が高くなっています。

	肺	胃	肝	大腸	乳	計
患者数	685	211	164	431	79	1,570
割合	15.6%	8.8%	7.8%	12.9%	5.7%	11.5%
がん拠点病院患者数合計	4,387	2,407	2,116	3,354	1,374	13,638

- 5 大がん以外のがんでは、血液がんが市内トップの実績となっています。
市民病院における血液がんの患者数 523 人(28.5%)
がん診療拠点病院患者数計 1,838 人

みなと赤十字病院

【指定時期】 平成 24 年 4 月

【主な診療実績】(平成 26 年度第 5 回診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会資料より抜粋)

- みなと赤十字病院における 5 大がんの診療実績(市内がん拠点病院(県指定病院を除く。)の患者数合計に占める割合)は、乳がんの割合が高くなっています。

	肺	胃	肝	大腸	乳	計
患者数	316	213	151	240	158	1,078
割合	7.2%	8.8%	7.1%	7.2%	11.5%	7.9%
がん拠点病院患者数合計	4,387	2,407	2,116	3,354	1,374	13,638

取組 2

がん検診

がんの死亡率、罹患率を下げるためには、がん検診によるがんの早期発見、早期治療が最も効果的であり、両病院とも充実したがん検診体制を備えています。



市民病院

市民病院がん検診センターは昭和 56 年から培ってきた検診実績と精度管理により、がんの早期発見に努めています。

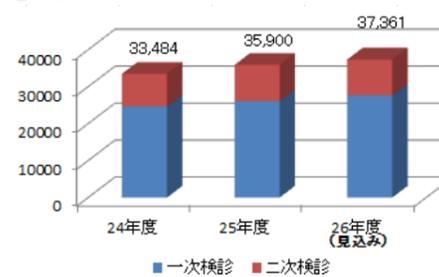
【特徴】

- 横浜市がん検診【胃、大腸、肺、乳、子宮、前立腺】と、病院独自のオプション検診【喉頭、肝胆膵、婦人科超音波(卵巣)、口腔、前立腺(40~49 歳)、肺ヘリカル CT、PET-CT】の計 13 項目の検診を行い、検診項目ごとに受診ができます。
- 精密検査が必要な方の二次検診と経過観察を行っています。がんが発見された場合は、速やかに当院での診断、治療を行います。
- 働く世代の受診者の利便性向上を図るため、毎月第 2 土曜日の午前に検診を行っています。奇数月は女性専用検診としています。

【精度管理】

- 18 区で実施している肺がん集団検診のレントゲン二次読影(2 人の専門医が交互に読影)及び判定を行っています。また、地域医療機関が行う肺がん個別検診についてレントゲン二次読影会へ参加し、市域における肺がん検診の質の向上に努めています。
- 二次検診が必要な方(経過観察を含む。)へ個別に受診勧奨を行い、がん疑いや他疾患疑いの方を適切に医療へと結びつけています。
- がん検診センター及び 18 区肺がん集団検診の受診者データを管理しています。また、発見されたがん患者の情報を台帳管理し、追跡調査(生存調査)を行い、5 年生存率、10 年生存率を算出しています。

【検診実績(受診者数)】



【がん検診普及啓発事業(26 年度)】

- 市民公開講座(9/20 前立腺がん、参加者数 254 人)
- がん検診啓発講演会(11/29 肺がん、参加者数 235 人)
- 区民まつり(西区・保土ヶ谷区・旭区)へ参加
- 市立病院健康フェア(12/23 横浜そごう前広場)へ参加

【今後の取組】

- 現在の喉頭がん検診を変更し、ファイバースコープによる喉頭・下咽頭がん検診を開始します。
- インターネット予約システムについて、検診項目ごとに予約ができるよう拡張します。



11 月 29 日 がん検診啓発講演会
「いのちの落語」 樋口強氏

みなと赤十字病院

みなと赤十字病院健診センターでは、健診者一人ひとりのニーズを大切にしながら、市民の健康管理に貢献したいと考えています。

【特徴】

- 豊富な人間ドック・健診コースとオプション検診の組合せにより「オーダーメイドヘルスチェック」が実施可能です。
- 横浜市がん検診【胃、大腸、肺、乳、子宮、前立腺】、横浜市肝炎ウイルス検査、病院独自の人間ドック【1 日及び 2 日人間ドック、大腸ドック、脳ドック、レディースドック、肺ドック、スーパーがんドック、PET-CT スーパーがんドック、】、【オプション検査: 胃カメラ(経口又は経鼻)、胃部 X 線、頭部 MRI、MRA、胸部ヘリカル CT、腹部超音波、腫瘍マーカー(前立腺・卵巣)、マンモグラフィ、子宮頸部・体部、婦人科超音波、HPV、喀痰】
- 病気が発見された場合、速やかに外来診療科を紹介し、早期の精密検査、治療を開始します。また、他医療機関への紹介も可能です。
- 健診者の個別性を重視した生活習慣病予防の指導、支援を希望により実施しています。
- 人間ドック・健診終了後、希望者には医師との直接面談により、検査結果等の説明を行っています。

【がん検診普及啓発事業】

<みなと市民セミナーの開催(がん関連抜粋)>

第 2 回: もっと知りたい女性のがん(24 年 6 月)、第 5 回: 大切ないのちを守るために知っておきたい胃がんと大腸がんのお話し(25 年 6 月)、第 7 回: もっと知ろう! 肺がんのこと(26 年 11 月) 【参加者数】166 人~432 人(平均 275 人)

【がん検診・健康診査・人間ドック実績(25 年度)】

11,752 件

がんの経過

健康

発がん（無症状）

発病

進行

寛解

寛解

再発

転移

不治

医療等サービス

健診

予防

検診

治療

緩和ケア

取組3

集学的治療・高度医療

市立病院では、がんを扱う診療科・部門などが連携し、がんの種類や進行度に応じ、「手術治療」「化学療法」「放射線治療」などを組み合わせた集学的治療を実施しています。また、それぞれの病院の「強み」を活かし、質の高い高度な医療を提供しています。

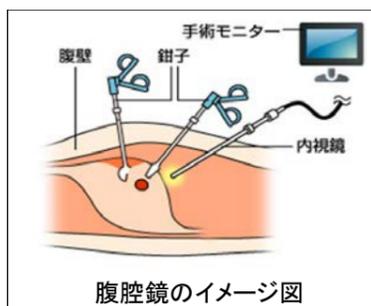


市民病院

【腹腔鏡による低侵襲手術の推進】

<婦人科内視鏡手術センター>

- 婦人科がんの診療・治療の強化、充実を図ることを目的として、26年度に「婦人科内視鏡手術センター」を設置。内視鏡技術認定医の資格を有する常勤医師の配置などにより「腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術」を積極的に実施しています。



腹腔鏡のイメージ図

<腹腔鏡による前立腺がんの手術>

- これまで開腹が中心だった前立腺がんの手術について、26年度からは腹腔鏡を用いた「腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術」を積極的に実施しています。

腹腔鏡手術実績	26年度(※)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	11件
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	10件

※26年11月末時点

【血液の腫瘍性疾患への対応】

- 白血病、悪性リンパ腫等、血液の腫瘍性疾患に対する標準的な化学療法に加え、移植医療に精通したスタッフによる造血幹細胞移植にも力を入れています。

【今後の取組】

<がんセンター機能の強化・充実>

- がん診療体制の強化・充実に向けて、がん登録情報の運用管理、検診から診断、治療、緩和ケアまで、がん疾患に対する集学的な医療の取組組織として、27年度から「がんセンター」を設置します。

<放射線治療の充実>

- 新たに、放射線治療専門の治療を行う医学物理士を配置します。今後は、IMRT(強度変調放射線治療)の実施に向けた体制を強化します。

<婦人科内視鏡手術センターにおける腹腔鏡手術の推進>

- これまで開腹が中心だった子宮頸がん等の手術について、腹腔鏡を用いたより高度な手術の推進に取り組みます。

+ みなと赤十字病院

【手術・治療の推進】

- 腹腔鏡・胸腔鏡下のがん手術、ロボット支援鏡視下前立腺がん手術(外科、呼吸器外科、泌尿器科、婦人科)
- 肝胆膵領域の悪性腫瘍に対するIVR治療※
〔※ IVR(インターベンショナルラジオロジー):画像で体内の様子を確認しながら、細長い針やカテーテルを身体に差し込んで行う治療〕
- 乳がん手術・同時再建(乳腺外科・形成外科)
- 外来化学療法は、全て「化学療法センター(24床)」で安全、確実に実施する体制を整備
- 放射線がん診断・治療設備の整備(PET-CT、リニアック)
- 鏡視下手術等のトレーニング機器等を備えたスキルラボの整備・運用

【手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」(26年2月導入)】

<概要>

- ダ・ヴィンチは、ロボット本体と操作台、助手用のモニターなどで構成され、医師が遠隔操作して、身体への負担が少ない低侵襲の手術を行うものです。

<効果>

- 3次元の拡大された鮮明な立体画像を見ながら手術が行えるため、手術の精度や安全性が向上します。
- 患者の身体に小さな穴を開けて機器を挿入するため、患者にとって傷口が小さく、出血が少なく済み、術後の痛みが少ないことから早期に回復します。

<保険適用>

- 現在は前立腺がんに対する全摘手術のみが対象ですが、今後は消化器などへの適用拡大が期待されています。

<稼働実績>

25年度 5件
26年度 46件(12月末まで)



取組4

緩和ケア

緩和ケアの役割は、がんによる心と身体の痛みを和らげ、患者がその人らしい生活を送れるよう支えることであり、拠点病院として終末期に限らず、がんの早期から緩和ケアが提供できる体制を整備しています。

+ みなと赤十字病院

【緩和ケアセンターの設置】

緩和ケア外来・病棟、緩和ケアチーム等を統括し、患者中心の緩和医療を提供するための組織として、「緩和ケアセンター」を設置、運営しています。

<緩和ケアチームの体制>

医師5名(身体緩和ケア、消化器内科、血液内科、精神科、歯科口腔外科)
看護師3名(専門・認定看護師)、薬剤師1名、歯科衛生士1名
臨床心理士1名

【苦痛のスクリーニング】

26年8月から化学療法センターと放射線科では、がん患者に対する身体的、精神的、社会的苦痛のスクリーニングを開始しました。
対象科(7科):消化器外科、消化器内科、乳腺外科、放射線科、血液内科、呼吸器内科、産婦人科

【緩和ケア病棟稼働実績】

	25床	24年度	25年度
延入院患者数		6,386名	6,807名
平均在院日数		39.8日	31.1日

市民病院

【緩和ケアチームの活動】

緩和ケア内科や他の関係医師、専門看護師、薬剤師、管理栄養士からなる「緩和ケアチーム」による病棟回診を毎週行い、協力しながら診療にあたっています。

【苦痛緩和と外来の実施】

26年12月から、苦痛緩和に関する相談を目的とした外来を開設し、患者の様々な苦痛に対する早期スクリーニングに努めています。

【緩和ケア病棟稼働実績】

	20床	24年度	25年度
延入院患者数		6,381名	6,673名
平均在院日数		27.2日	31.2日

取組5

地域連携

市立病院では、病院での治療を終え、在宅療養や介護を必要とする患者・家族が安心して地域に帰ることができるよう地域医療機関や福祉関係機関と十分に連携を取り、社会資源の活用や在宅療養支援を行っています。また、地域医療従事者を対象とした研修会等により地域医療の質向上に貢献しています。

市民病院

【がん地域連携クリティカルパス】

手術や放射線治療などの専門的ながん治療を終えたがん患者を、地域医療機関と共同して診療するために、病院と地域医療機関が診療計画や治療経過などを共有する「がん地域連携クリティカルパス」を運用しています。26年4～12月のパス運用は、乳がん、肝がん、前立腺がんで、54件となっています。

【地域医療従事者を対象とした研修会】

- がん治療の初期段階から緩和ケアを提供するための基礎知識の習得を目的とした「緩和ケア研修会」を開催しています。
- がん診療や抗がん剤、がん地域連携クリティカルパスなどについて知識の習得や最新情報の共有を目的としたがんに関する研修会(26年度3回)を開催しています。



11/30、12/7 緩和ケア研修会

【今後の取組】

- がん症例に対して適応可能ながん地域連携クリティカルパスの種類拡大、連携医療機関の拡大を図ります。
- がんに関する研修会、がん地域連携クリティカルパスの普及に向けた研修会を充実します。

みなと赤十字病院

【がん地域連携クリティカルパス】

- がん地域連携クリティカルパスを整備し、胃がん、大腸がん、乳がんで、年間約100件の運用を行っています。

【病病・病診連携の取組】

- 地域のがん診療施設間の連携を推進するため「横浜(南)がん病病連携会」を開催し、講演会等の共同開催や相互支援を通じて、地域全体のがん診療機能の向上や地域医療人材の育成を図っています。
- 病理診断又は画像診断に関する依頼、手術、放射線治療、化学療法又は緩和ケアの提供に関する相談など、地域医療機関の医師と診断及び治療に関する連携協力体制を整備しています。

取組6

院内がん登録

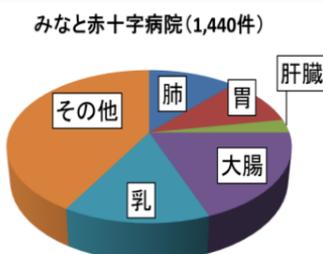
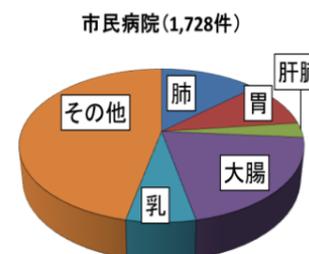
院内がん登録は、施設におけるがん診療の実態を把握し、がん診療の質の向上とがん患者の支援を目的に行うもので、厚生労働省が定めた登録項目・定義に従い、当該施設でがんの診断・治療を受けた全患者について、がんの診断、治療、予後に関する情報を登録する仕組みです。

【5大がんの構成割合】

※2013年院内がん登録速報値

【今後の取組】

今後は国立がん研究センターから提供される予定の予後情報を活用し、更なるがん診療の質向上を図ります。



取組7

患者へのサポート

院内・院外のがん患者及びその家族のほか、地域医療機関等からのがん診療に関する相談や情報提供を行う「がん相談支援センター」を設置するほか、様々なサポート提供体制を整えています。

みなと赤十字病院

【みなとサロンの運営】

- みなと赤十字病院では、25年5月から、患者やその家族を対象に、からだところのバランスを整えること、自分らしさを取り戻すことを目的に、ストレッチや体操、情報提供やミニレクチャー、語りあう場などのプログラムを提供する「みなとサロン」を通じて支援に取り組んでいます。
- 円滑なサロン運営のため、医師、看護師、臨床心理士、がん相談員がスタッフとして関わっています。当院受診の有無は問わず、患者だけでなく、家族も自由に利用できます。

<みなとサロン実績(25年5月～26年12月)>

がんサポートプログラム参加者数	152人
-----------------	------



～みなとサロン(がんサロン)～
サポートプログラムのご案内

がんの予防・再発予防をめざした、学習とお話の会を開催します。みなさんとの話し合いを通して自分の生活習慣を見直し、立て直しに向かってヒントを学び合い、新しい一歩を踏み出してみませんか？
関心のあるがん患者さん・ご家族の皆様のご参加をお待ちしております。お問い合わせ・予約は、下記にご連絡下さい。

4回シリーズとなっています。最終参加されるより理解が深まります

- 第1回 5/15(金) がんと生活習慣と免疫のおはなし
- 第2回 6/10(水) 免疫力を高める食事作り
- 第3回 7/14(火) 免疫力を高める睡眠・保湿・運動習慣
- 第4回 8/21(金) 人間関係・心の持ち方「対話」

場所：横浜市立みなと赤十字病院 5階化学療法センター奥
時間：13:30～14:30
参加費：無料
募集人数：10名程度

ご予約・お問い合わせ：横浜市立みなと赤十字病院 がん相談支援センター 直通電話(045-628-6317)

市民病院

【ハローワーク横浜と連携した就職支援事業】

- がん相談支援センター内にブースを設置し、ハローワーク横浜から派遣された「就職支援ナビゲーター」による出張相談を月1回実施しています(25年8月から開始)。
- がん相談員(看護師)は、就職を希望する患者の医療面・療養面をサポートしながら、出張相談やハローワーク横浜内の長期療養者職業相談窓口を案内します。

<就職相談実績(25年8月～26年11月)>

がん相談支援センター就職相談件数	133件
就職支援ナビゲーター出張相談件数	18件
ハローワーク横浜窓口相談件数	42件
就職者数	3人

【今後の取組】

- 社会保険労務士と連携したがん患者の復職や就労の継続のための支援を検討します。
- 当院の医師や医療スタッフによる患者会の活動支援のあり方を検討します。

